津田学園高等学校(三年制)

https://tsudagakuen.ac.jp/koukou/
桑名市野田5丁目3-12 TEL:0594-31-6311

光り輝く高校生活を送るために

今後の教育の大きな流れに対応するため、アクティブラーニング型授業や探究活動への取り組みを積極的に取り入れています。これらの成果として、「みえ科学探究フォーラム」にて、2年連続で最優秀賞を受賞しています。また、教育ICTでは最先端の機器を活用して、わかりやすくて深く学ぶことのできる授業を展開しています。グローバル・マインド育成の取り組みでは、ALTやデジタル教科書を活用して英語によるコミュニケーション力を向上させるとともに、グローバル社会において活躍できる人材育成を目指して革新的な実践を行っています。さらに道徳教育では、「偉人に学ぶ」を統一テーマとして他者に対する思いやりの気持ちや感謝の心などを育むことにより、社会に貢献できる人材の育成を目指しています。未来を拓く人材の育成を目指し、特色ある教育活動を展開しています。

☑ 英会話部がESS部へと名称変更し、新しく動き出しました

今年度よりESS部が始まりました。主な活動内容は、ALT(外国語指導助手)との英会話やリスニングの練習です。英会話ではグループディスカッションをしており、ALTが面白く、丁寧に指導するので、英語が得意な人も苦手な人も楽しく活動できます。さらに月に1回外国の先生と25分間オンライン英会話をしています。外国の方と1対1で話す貴重な機会となり、スピーキング力やリスニング力を上達させる場となります。生徒たちも最初は緊張していましたが、話し始めるととても楽しそうで、あっという間に時間が過ぎていったようでした。
ESS部は英会話を楽しめるのはもちろん、英語力も鍛えられ、将来に役立ちます。英語で話せるようになることを目標に日々取り組んでいます。

☑ 鈴鹿医療科学大学との高大連携講座

今年度は2年生の2つのグループが鈴鹿医療科学大学との高大連携講座を実施しています。1グループは、看護学部との連携講座で、体温の正しい測定方法について研究をしています。測定部位や器具ごとに実験を行い、それぞれの測定値を比較・分析し、より正確な測定方法を探究するのが目的です。もう1グループは、昨年度に引き続き「薬膳」に関して研究を行っています。9月には「薬膳とは何か」「薬膳(食養生法)の適応」等の講義を受けました。その中で「薬膳茶でストレス解消」をテーマに研究し、生徒たちが唾液アミラーゼ測定実験や心拍数の計測等を行いました。白湯や、ジャスミン茶を用いて実験を実施しています。今年度もその結果を、みえ科学探究フォーラムで発表し、昨年度に引き続き最優秀賞の獲得を目指します。

☑ 文化祭を実施しました

9月17日・18日、文化祭を実施しました。今年度は新型コロナウイルス感染症対策として、オープニングはオンラインで実施し、各HRでクラスの企画を紹介する動画を視聴しました。また、マスク着用や消毒の徹底、三密を避ける等の対策も実施しました。このように例年とは違った形での開催となりましたが、展示や発表において工夫を凝らし、この日までの準備の成果を出し切っていました。
2日目はNTNシティホールにて実施し、午前中にはコメディーマジックコンビキャラメルマシーンによるマジックショー、パフォーマンスを鑑賞しました。午後は恒例の剣道部による劇や太鼓の舞台発表、ダンス部によるパフォーマンスが行われました。どの舞台も大いに盛り上がりを見せました。

TEACHER'S VOICE

津田学園高等学校 総括主任教諭 伊藤岳樹

3年生の『地理』と『倫理』、『政治・経済』を担当しています。来年1月に「大学入学共通テスト」が実施されます。「記述式」や「民間試験導入の有無」、加えて「新型コロナウイルス」などの問題も山積する中、「共通テスト」元年の受験生はどのように立ち向えばいいのか? 私が担当する公民は日常と関連することも多く、常に新しい情報を手に入れるように心がけています。教職経験は長いのですが、まだまだ学ぶべきことがあり、この仕事に終わりはないと思っています。

教師は人を育てる仕事なので、生徒たちへの働きかけは常に使命感・責任感を持つように心がけています。それでも過去を振り返ると失敗したことばかりが思い出されます。そんな私にとって一番嬉しかった生徒の一言は「先生の授業を受けて、社会の教師になろうと思いました」です。この時ばかりは教師をしていて本当に良かったと感じました。定年間近な私にとって、津田学園の生徒たちや先生方と過ごす日常はとても大切な時間になっています。

躍動

津田学園広報誌
2020.12 Vol.6

津田の夢
津田の信念
津田の友情

出会いと学びの広場
学校法人 津田学園

編集 発行　学校法人 津田学園

津田学園の教育　新時代に挑む教育活動

教育ICTを活用した取り組み

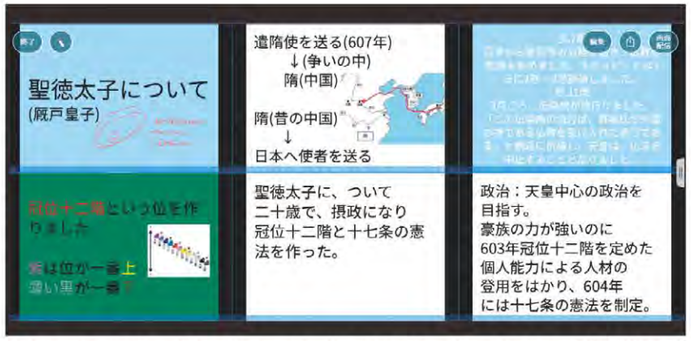
本学園では全国に先がけて教育ICTを積極的に推進してきました。平成25年の電子黒板の導入を皮切りに平成28年までに全教室に電子黒板を配備し、さらにタブレット端末などの導入を進めて参りました。現在はそれらのICT機器を活用して、Google for Education、ロイロノート、スタディサプリなどの各種授業支援システムやデジタル教科書によるわかりやすい授業を展開しています。また、ノートパソコン（Chromebook）やタブレット端末（iPad）による双方向型授業を推し進めており、電子黒板との連動や端末同士の情報共有など、児童生徒がより主体的に学べるような新しいスタイルの授業に挑戦しています。

今春の4月15日から5月31日までの休校・分散登校の期間においては、学びを継続させるために、このような教育環境を大いに活用した取り組みを行いました。

津田学園小学校、津田学園中学校・高等学校（六年制）、津田学園高等学校の休校・分散登校期間中の教育ICTを活用した教育活動を紹介します。

▌津田学園小学校の取り組み

休校措置の間、教育ICTを活用したオンライン上での教材を配信しました。これは、少しでも児童がスムーズに学校生活に戻れるよう課題を設定したものです。配信した教材は、本校独自のカリキュラムに沿ったオリジナルのものです。またオンラインによるオリジナル教材提供だけでなく、アプリケーションを利用した双方向型の学習も行いました。4・5年生はロイロノート・スクールというアプリを使用しています。これは、教師と児童、あるいは児童同士の資料交換が可能なアプリです。課題の提出や間違えた問題のフォローだけでなく、作成した資料を共有して、他者の視点や面白さを学ぶことができます。右の画像は、5年生の社会での聖徳太子について調べる学習の一部です。各自ロイロノートを使って調べたことをカードに提出してもらいました。また、他の児童のカードを見ることで、知識を共有しました。このように教育ICTを活用しながら、わかりやすく、また実現可能な新しい学びの形を模索しながら、さらに発展させていきます。



▌津田学園中学校・高等学校（六年制）の取り組み

4月20日から自宅学習中のサポートのため、G Suite for Educationのアプリであるオンラインビデオ会議ツールGoogle Meetを利用して、遠隔HR活動を実施しました。オンラインHRは毎朝9時10分から行い生徒たちはGoogle Meetを通じて担任や友達の姿を見ることができ、安心したようでした。さらに、5月7日からは午前に2時限、午後に2時限の遠隔授業を実施するなど、生徒たちの学習の機会を確保し、サポートすることができました。このような取り組みが可能であったのは、生徒1人1台のノートパソコン（Chromebook）を3年前から活用していたからです。生徒たちはChromebookを新しい文房具としてあらゆる場面で使っていました。そのような環境の中、今後もさらに教育ICTを推進し、より質の高い教育が行えるよう活用していきます。

▌津田学園高等学校の取り組み

休校期間に入り授業の動画配信を始めました。各家庭での通信環境が課題でしたが、事前に家庭での通信環境に関する調査を実施するなど、スムーズに授業の動画配信ができました。内容としては、おもに休校期間中に出された課題の解説と次回の課題の伝達を行いました。休校期間中の学習に関して、オンライン授業講義のおかげで課題に取り組みやすかった、という生徒の声が多くありました。

次に紹介したい実践がZoomを利用したオンラインHRの実施です。本校は5月以降に関しては分散登校という形をとりましたが、これによって課題になったのが登校しない生徒の状況の把握でした。この課題を解決するためにZoomを活用したオンラインHRを実施しました。オンラインHRでは、生徒の体調管理や、連絡事項の伝達の他、特に3年生に関しては進路相談をしたい生徒などに対して個人面談や保護者を交えての三者面談等を実施しました。このオンラインHRでは休校期間が長引くことによる不安が軽減したとの生徒の声が聞こえてきました。

来年度の入学生からはノートパソコン（Chromebook）の1人1台所有が始まります。これまでの授業や学習スタイルをさらに進化させていきます。

津田学園の教育　未来を見据え、躍動する教育活動。

道徳教育の取り組み

本学園では、道徳教育を教育の根底としています。「先人のすばらしい生き方やその生きざまに近づこうとする」「日本の歴史・文化・伝統を尊重する」「人類愛の尊さや世界の人々との共生の大切さを学ぶ」「国際社会の平和と人類の幸福に貢献する」ということを道徳教育の目標としています。これまで「偉人に学ぶ」をテーマとして、命のビザを発行した「杉原千畝」・台湾で最も尊敬されている日本人「八田與一」・三重県の偉人で北海道の名付け親「松浦武四郎」など、偉人と呼ばれる人々が、どのような信念に基づき、どのようにして困難に立ち向かい、社会に貢献したのかを学んできました。さらに、偉人と呼ばれる人々の関係者をお招きし実体験に基づく生の声を聴く「道徳講演会」を実施しています。

また、能楽・邦楽・狂言など、伝統芸能の鑑賞・体験活動を行い、日本の伝統・文化を理解する機会も設けています。

新元号が「令和」となり、その語源が国書にあることで『万葉集』が世間の注目を集めました。この機会に、日本の古典や伝統文化に興味関心を持ち、学び、発表することで主体的な学びを実現させたいと考え、『古事記伝』を著した三重県の偉人である本居宣長について、その生き方や業績を学び、自らの生き方を模索できるような活動を展開しました。これらの活動は小学校、中学校、高等学校と連携し冊子にまとめ、津田学園のホームページからも閲覧できます。(https://tsudagakuen.ac.jp/chugaku/wp-content/uploads/sites/5/2020/04/61b33e70ca74e02644fccdd12c5d3d19.pdf)

津田学園小学校、津田学園中学校、津田学園高等学校でのそれぞれの特色ある道徳教育を紹介します。

▌津田学園小学校の取り組み

平成30年4月から「特別の教科　道徳」（道徳科）が全国の小学校で教科化されましたが、本校ではそれ以前から道徳教育を重要視してきました。教材として全学年で『はばたこう明日へ』（教育出版）を、5・6年生はさらに『はじめての道徳教科書』（育鵬社）を使用しています。歴史上の偉人やスポーツ選手の生き方が豊富に扱われている教材から、日本人が古（いにしえ）から大切にしてきた「清明心」について学び、先人たちの功績や人生を自分自身に置き換え、生きる指針を見出すことができると考えています。

昨年度の文科省から委託された「我が国の伝統や文化に関する教育の充実に係る調査研究」では、4・5年生は『古事記』をテーマに探究活動を行いました。国語科では日本の神々について学び、「因幡の白兎」などの神話を学びました。社会科では探究活動を行い、タブレット端末を使用しアプリケーションでまとめ、その成果を学習発表会で発表しました。また、図画工作科では『古事記』の話の一場面を絵に描きました。この絵画は松阪市の本居宣長記念館に展示されました。

児童には、歴史から学び日本人としての誇りを持ち、自己の生き方について考えを深める学習を通じて、さらに、家族・郷土・国・自他を愛する心を持ち、自立した人間としてよりよく生きる力を養っていって欲しいと思います。

▌津田学園中学校の取り組み

「日本の歴史・文化・伝統を大切にする心を育てる」、「フィールドワークを通じて自ら課題を見出し探究する力を伸ばす」ことを目的として、昨年度より2年生が「伊勢研修」を2泊3日で実施しています。グループに分かれて「内宮、外宮」「式年遷宮」「神宮の年中行事」「古事記、神話」「伊勢の食文化」「伊勢の観光」について調査します。2日間のフィールドワーク終了後に、各グループの発表を行い、事前に学習したこと、現地で学んだことを振り返ります。他のグループの発表も聞き、さまざまな情報を共有し、万葉の昔から伊勢神宮と共に栄え、「日本のふるさと」とも言える伊勢について深く学びます。最終日は、日本は神々の時代から感謝と協力によって社会が成り立っていることを神話から学びます。また、本居宣長記念館では、本居宣長が古来の日本人の考え方を見つけ出すために、当時はだれも読むことが出来なかった『古事記』を研究したことや、その解読に35年も費やしたことを学びます。このような実体験を通した学びは、歴史・文化・伝統を直接見て知ることとなり、生徒たちの理解をより深めることができます。これらの学びを通して、これから国際社会の一員として生きる日本人としての自覚とともに、郷土や我が国の伝統・文化を大切にする心を育み、国際社会で生きていく自分の役割や将来を考えることにもつなげていきたいと考えています。

▌津田学園高校の取り組み

令和元年度の道徳教育活動は、「紙幣になった偉人」をテーマに1・2年生が年間を通して8回、3年生が5回の「道徳の授業」を実施しました。また、この道徳授業と並行して「本居宣長と古事記」について探究活動として学びました。

「紙幣になった偉人」については、令和6年より新紙幣に代わることを踏まえ、その人物の生涯を学ぶことを通して、「さまざまな困難をどのようにして乗り越えたのか」、「なぜ偉業を成し遂げることができたのか」を中心に学ぶことを目的としています。紙幣になった偉人の中でも、誰もが知っている偉人もいれば、そうでない偉人もいます。知名度と数々の業績のギャップがあり、生徒の反応も良かったように感じました。渋沢栄一、野口英世、津田梅子、北里柴三郎などの偉人も取り上げました。

「本居宣長と古事記」については、令和元年5月末、松阪市にある本居宣長記念館を訪問し、館長から宣長についての話を聞きました。生徒は、探究活動を通じて宣長と『古事記』について調べ、宣長の人柄や気質、『古事記』の読み方について興味を持つようになりました。10月には、2名の生徒が國學院大學の渡邉卓准教授を訪ね、宣長と『古事記』についてフィールドワークを行いました。そして、これらの学んだことを令和2年2月15日に開催されたみえ科学探究フォーラムに「古事記と日本書紀」・「三重について」というテーマで参加して、ポスター発表を行いました。

津田第一幼稚園 津田第二幼稚園 津田三滝幼稚園
津田桑名幼稚園 津田大山田幼稚園

TSUDA GAKUEN https://tsudagakuen.ac.jp/yochien/

さまざまな体験を通して、こころとからだを豊かに育てます

幼児期はめざましい成長が見られ人格形成の基礎を培う大切な時期です。この時期に存分に身体を動かして知的好奇心を刺激することは、子どもの成長に大きな糧となります。自然や伝統文化に触れる体験、日ごろの練習の成果を発表する運動会や音楽祭などさまざまな体験をすることで、子供たちは見違えるほど成長します。こころを動かす感動体験が豊かなこころを育みます。

津田第一幼稚園

四日市市笹川1丁目106-2
TEL:059-321-8836

四日市市立博物館のプラネタリウムへ行きました

7月14・15日の2日間に分散して、年長児が四日市市立博物館のプラネタリウムへ行きました。5階のプラネタリウムに行くためにエスカレーターに乗ると、天井に光り輝く星を見つけ期待が膨らみました。5階はフロア全体が宇宙船内をイメージした内装になっています。窓からは地球の様子が見え、地球をはじめとした太陽系の天体について知ることができました。宇宙服や宇宙食などの展示もあり、まるで宇宙旅行をしているようでした。プラネタリウムでは、四日市の街に広がる夜空にひときわ輝く一番星を見つけたり、星と星を線でつなぎ、いろいろな星座があることを知ったりしました。また、迫力あるスクリーンで七夕祭りの物語を見ることができ、とても喜んでいました。

津田第二幼稚園

四日市市笹川7丁目52
TEL:059-321-8011

自然とふれあう機会を大切にしています

6月15日、幼稚園でさつまいもの苗を植えました。毎日、子供たちが水やりを行い「まだかな?」「早く大きくならないかな?」と、心待ちにしていました。そして秋が深まった10月に収穫をしました。つるを見た子供たちは「長いね!」と、驚く姿が見られました。土を起こして掘り進めるとぷっくりとしたさつまいもが顔を出し、子供たちは大喜びで「大きいね」と、顔を見合わせ嬉しそうな表情が見られました。収穫したさつまいもに顔をつけて、雪だるまに見立てました。津田第二幼稚園にはカシの木があり、どんぐり拾いも盛んです。秋の季節にしか体験できない木の実拾いや紅葉した落ち葉拾いも楽しんでいます。収穫の喜びを味わい、実体験を通して心が育つ環境を今後も提供していきます。

津田三滝幼稚園

四日市市川島町6513
TEL:059-321-8311

「運動会」を学年ごとに行いました

津田学園の各幼稚園では今年度、新型コロナウイルス感染拡大防止予防のため、学年ごとに時間を決めて運動会を実施しました。津田三滝幼稚園では10月11日、「おおぞらにとどけ☆みんなのえがおみたきっず」をテーマにとても良い天気の中、津田キッズスクエアで開催しました。年長は鼓隊・リレー・体育演技、年中は体育演技、リズム、パラバルーン、年少と満三歳児はかけっこ、リズムと大きなグラウンドで元気いっぱい発表しました。運動会の最後は、みんなの願いを書いた短冊を風船につけて飛ばしました。みんなの夢をのせた風船は大空高く飛んでいきました。毎年、短冊を拾ってくれた遠くの方からお返事を頂きます。子供たちは楽しみにしています。

津田桑名幼稚園

桑名市大字東方266-1
TEL:0594-22-2611

音楽指導でリトミックを楽しみました

本学園では「リトミック」の指導を年間を通して行っております。リトミックは、楽しく音楽と触れあいながら、子供たちの潜在的な音楽の基礎能力の発達を促すものです。ピアノの楽しい伴奏にあわせて身体でイメージを表現していくので、心と身体のバランスがとれる知育として、とても楽しい時間になっています。ピョンピョンうさぎさん、のっそりのっそりぞうさん。いろいろな表現を子供たちなりに楽しんでいる姿が見られます。これからもより一層、音楽が好きになるような機会をつくっていきます。これらの活動を通して豊かな心と身体を育んでいきたいと考えています。

TEACHER'S VOICE

津田第二幼稚園 主任教諭 甲斐久美

今年度は年中児の担任をしています。子供たちの気持ちに寄り添いながら、優しく温かく接し、幼稚園のお母さん的存在を目標にしています。保育で心掛けていることは子供たちと一緒に自分も楽しむことです。楽しい事はまたやってみよう、もっとやりたいと意欲的になり自信にも繋がります。最近、年中組は縄跳びに挑戦しています。子供たちとジャンプの競争や縄跳び競争をして一緒に楽しんでいます。子供同士で刺激し合う姿は、たくましさを感じます。出来た時の嬉しい表情や感動する姿をみて一緒に共感できる喜びを感じています。子供たちの成長を身近で感じられる保育の仕事はやりがいがあり魅力的です。子供たちは無限の可能性を持っています。子供たちの純粋な発想力や想像力を大切にし、日々の保育の中でできることを一つ一つ増やしていくお手伝いをしたいと思います。
津田学園の幼稚園で遊び、学んだことを心の中の記憶に残してもらえると嬉しいです。

津田大山田幼稚園

桑名市野田5丁目3-12
TEL:0594-31-8182

テニスを楽しんでいます

園舎の隣にあるテニスコートでテニスの指導を受けています。年中児はボールの感触を楽しむことから始め、最終的にはラケットを使ってボールを打つことに挑戦します。年長児は、1つのテニスボールを片手ずつ交互にキャッチし、次に2つのテニスボールを両手に1つずつ持ち、同時にバウンドさせてキャッチすることに挑戦します。その後、ラケットを使っての指導ではボールをラケットで転がしたり、ラケットにボールを乗せてバランスよく運んだりして楽しみます。そして、テニスのコーチでもある体育指導の嶋久保先生が出すボールをタイミングよく打つところまで挑戦します。普段の指導をきっかけにテニスへの興味が深まり、中学生、高校生まで続けている卒園児さんもいます。子供たちの可能性を引き出し、大きな成果を促し発達や育成効果がもたらされる事を願い毎日の体づくりを行っています。

TEACHER'S VOICE

津田桑名幼稚園 総括主任教諭 西村治彦

津田桑名幼稚園に勤務し20年になります。今年度は元気いっぱいの年中組を担任しています。毎日子供たちには、「挑戦!」「まずはやってみる!」を合言葉に保育を行っています。
またナゴヤドームで毎年開催されているドッジボール大会にも連続10回出場しています。結果は、過去8回優勝して、昨年度はすべての賞を独占しました。あきらめずに頑張る子供たちの姿を見て、私自身が力をもらっています。
卒園児が大学生になり幼稚園に教育実習に来たり、先生として一緒に働いたり、保護者として津田学園に戻ってきてくれています。日々の子供たちや、卒園児の成長が見られることは、私自身の励みとなっています。

津田スポーツクラブ

https://tsudagakuen.ac.jp/sports/
TEL:0594-31-1161

津田サッカークラブ　津田テニススクール　津田こども基礎体育クラブ
津田バレエクラブ　津田四日市リトルシニア

津田スイミングスクール https://tsudagakuen.ac.jp/swim/
大山田校 桑名市野田5丁目3-12 TEL:0594-31-1161
桑 名 校 桑名市大字東方266-1 TEL:0594-22-2610
四日市校 四日市市久保田2丁目11-13 TEL:059-355-7771

津田スポーツクラブでは、5月の緊急事態宣言解除後は新型コロナウイルス対策を徹底し安全にレッスンを行っています。夏休み期間中は、スイミングスクールのイベントである短期水泳教室、秋には無料体験レッスンを複数回設定して、多くの皆様に参加していただきました。また、11月8日には大山田校・桑名校・四日市校の会員による第3回津田スイミングカップを行いました。水泳を始めたばかりの幼児から育成コースまで幅広い参加者による記録会です。通常の種目の他、ビート板を使った種目など、多彩な競技を楽しんでいただきました。
さらに、この冬は多くのイベントを計画しています。無料体験レッスンのほか、ワカサギ釣り、スキー教室を実施する予定です。是非ご参加ください。

進学塾津田学園

https://tsudagakuen.ac.jp/juku/
TEL:059-321-8221

本部・笹川スクール 四日市市笹川1丁目123　大山田スクール 桑名市野田5丁目3-12　桑名駅前スクール 桑名市大字東方266-1
えんぴつ教室(年中・年長児)　カンガルー教室(小学生・中学生)　アクティブ イングリッシュ スクール(幼児・小学生)

今年度は、コロナウイルスの影響で、4月中旬から5月中旬までの1か月間、全授業が一斉休講となりました。開校以来初めての措置となりましたが、その期間を利用してZoomを使ったオンライン授業を無償で行いました。感染拡大警戒宣言の下、外出自粛を強いられた会員の皆様とのオンラインでの交流は、スタッフにとってもかけがえのないものとなりました。なにぶん不慣れなところもあり、満足していただけるレベルではなかったのですが、いつもとは違う雰囲気で授業をできたことは、やってよかったと思っています。今後は、この経験をもとに、オンラインで可能なサービスを模索し、皆様の期待に応えられる授業を行っていきたいと思っています。

津田学園小学校

https://tsudagakuen.ac.jp/shougaku/
桑名市野田5丁目3-12 TEL:0594-31-9311

未来を拓く学力と自他を愛する人間性

津田学園小学校では、「頭のいい、賢い子」を目指す児童像に掲げ、「確かな学力」「探究心の追究」「道徳心の育成」の3つの教育方針を指針としています。
子供にとって極めて重要である初等教育の時期に、多様な教育活動で子供たちの好奇心や探究心を高め、感受性を育みます。そして、一人一人の能力の可能性を見つけ、大きく伸ばしながら、「未来を拓く学力」の基礎・基本を確実に身につけ、思いやりのある優しさを持った「自他を愛する人間性」の育成を目指します。一人一人の子供に「高い学力と高い人間性」の土台を培い、皆様のご期待に応えることが本校の使命であると考えます。

◎ 梅の収穫と梅干し作り

5年生は梅について様々なことを学びます。校舎周辺には数本の梅の木があります。これまで大きくなってきた梅の実を定規で計測したり、実の付き方をiPadで写真に撮ったりして観察してきました。日に日に甘い香りを出すことも発見しました。6月3日に梅の実を収穫しました。一つ一つ丁寧に梅の実を摘み取りながら、香りや触感などを確認していました。その後、洗浄し、ヘタを取り、たくさんの塩とともに樽に漬け込みました。翌日には梅全体が浸かるほどの水が出て驚いた様子でした。数日後に赤紫蘇を加えてさらに漬け込み、夏の熱い日差しの下で土用干しをして完成させました。5年生の恒例の学習となっています。

◎ 七夕の飾りつけ

1年生が本校の里山から切った笹竹に、七夕の飾りつけを行いました。生活の時間や休み時間等を使って、折り紙で彦星と織姫、天の川やちょうちんなどを作りました。紐結びがまだ得意でない児童もいますが、協力しながら丁寧に飾りつけをしていました。また短冊には皆それぞれ一生懸命に願い事を書いており、願いが叶うよう心を込めて笹の葉に結びつけていました。「おいしゃさんになりたい」「いきものはかせになりたい」「ピアニストになりたい」などさまざまなの願い事が書かれていました。この笹竹のようにぐんぐん成長してたくさん学び、皆さんが短冊に書いた願いをかなえていってください。

◎ 前期児童の会役員選挙

6月10日に前期児童の会役員選挙を実施しました。感染症対策のため、立会演説会の方法もオンライン形式で実施しました。立候補者はノートパソコン(Chromebook)に向かって演説をします。各教室ではGoogle Meetを通じてその演説内容を聞きました。例年とは違う演説会でしたが、立候補者からは「学校を今よりもっとよくしたい」という気持ちが伝わる堂々たる演説が行われました。各教室で演説を聞いている人は、立候補者一人一人の演説が終わるたびに温かい拍手を送っていました。その拍手は別会場で演説している児童にも聞こえてきており、励みになったようです。

◎ 礼法指導

日本舞踊西川流師範 西川千穂寿先生より礼法指導をしていただいています。1年生は7月17日が初めての指導でした。身だしなみの整え方やお辞儀の仕方、物の渡し方などを教えていただきました。そして、どの振る舞いにも相手への「思いやり」の気持ちが大切であることを学びました。指導後は「きちんとシャツを入れる」といった自ら気をつけたいことを掲げ、意識する姿も見られました。2年生は傘立てに傘をしまうときに持ち手を手前に向けることを学び、加えて授業の始まりと終わりの際の尊敬礼と、挨拶をする際の会釈礼の違いについても学習しました。日頃の生活から意識して取り組み、習慣にしていきます。

TEACHER'S VOICE

津田学園小学校 教頭 勝野学

平成16年の春、津田学園小学校の開校時に津田学園高等学校から異動しました。高校3年生から12年も年齢の離れた小学1年生を教えることになったのです。津田学園小学校での学校生活で、戸惑ったのは言葉遣いでした。小学校で働くのは初めてではなく、自分でも理解はしていたのですが、やはり1年生への実践となると異なるものでした。しかし、子供たちに教え、教えられ、毎日が高校での学校生活とまた異なる楽しさがありました。津田学園小学校では、多彩な体験学習を行っています。そしていつの間にか、自分自身が体験学習を楽しむようになりました。今では、子供たちとカブトムシやクワガタムシを学習し育て、メダカを飼育して楽しんでいます。機会があればぜひ、津田学園小学校へお立ち寄りください。

津田学園中学校・高等学校(六年制)

https://tsudagakuen.ac.jp/chugaku/
桑名市野田5丁目3-12 TEL:0594-31-6311

先行く学びが未来を拓く

これからの社会をたくましく生きぬく力を育むため、本校では多彩な教育活動に取り組んでいます。主体的・対話的で深い学びを実現する「アクティブラーニング」、高校からの探究活動の準備講座として探究心を呼び起こすユニークな講座「探究基礎」、さまざまな分野の専門家をお招きして本物を体感する「アカデミア津田」、自国の歴史・文化に誇りを持ち他国の文化を尊重し多様な価値観を認め合うことのできる人材となることを目指す「グローバル・マインド育成」。さらには本学園の教育の基盤である「道徳教育」を推進して、新しい時代にはばたく総合力を持った人材を育成します。

▣ 今年度はヒラタケを栽培しました

6月24日、2年生がホームルームの時間にヒラタケの本伏せを行いました。本校では、生物の成長観察や食育につなげることを目的として、毎年キノコ(菌類)の栽培を行っています。キノコが生育するためには、「雨などにより湿度が高く保たれること」や「太陽光が多く差し込むこと」、「他の菌類が侵入しにくいこと」など、クリアするための条件が数多く存在します。ヒラタケは校舎の中庭で栽培されるため、全学年の生徒が一緒に成長観察を行うことができます。学校生活の中でヒラタケの成長は生徒たちの関心事の一つになっていました。栽培したヒラタケは11月2日に2年生によって採集され、思いのほか簡単に採れるのに驚いた様子でした。実際に触ってみるとヌルヌルとした感触があり新しい発見となりました。また、栽培するにあたり植菌や仮伏せ、本伏せなどの作業があり、生産者の苦労も実感することができました。

▣ オンライン英会話が始まりました

今年度より、『産経オンライン英会話』を導入しました。この取り組みは、本校の「無線LANネットワーク」や一人一人が所有するノートパソコン(Chromebook)を活用し、マンツーマン環境による『英語コミュニケーション』の機会の創出と、『英語表現力(スピーキング)』育成を目的としています。生徒は、イヤフォン・ヘッドフォンを装着し、各自のノートパソコンを校内無線LAN(Wi-Fi)に接続し、受講します。レッスンは、日本の中学生用に開発されたテキストに基づいて進められます。1回25分のレッスンを受講します。講師はフィリピンの、英語教育資格(TEFL)を有する英語話者です。1対1で英語を使って会話をすることに苦戦している生徒もいましたが、チャット機能や身振り手振りを使い、自分の知っている言葉でコミュニケーションをとることができました。皆楽しく笑顔でレッスンを受けていました。

▣ サイエンスクラブ「染物体験」に行ってきました

新入部員の中に「なぜ植物の種類が変われば染物の色が変わるのか?」「なぜ植物を乾燥・発酵・熟成すれば染まり方が変わるのか?」と疑問に思う生徒がいました。そこでサイエンスクラブでは、校外学習として7月19日に松阪もめん手織りセンターと旧長谷川治郎兵衛家を訪問しました。松阪もめん手織りセンターでは、伝承グループ「ゆうづる会」の方々から染物体験の指導をしていただきました。「叩き染め」では、藍染めに使用するタデアイという植物を使い、マスクに葉の模様を写し取りました。もともとは葉の色は緑色であるのに叩き写すとキレイなインディゴブルーに変化することを体感しました。また、茎についた葉を取りミキサーにかけ染色液を作り、空気酸化によるインディゴの合成も体験しました。江戸時代から続く松阪ブランドの一つである松阪もめんは、合成インディゴが開発されてもなお、郷土の文化財として、天然物を利用した藍染めにこだわっており、その技術が伝承されています。このような学びは、探究活動として楽しみながら、実践的な知識が培われていきます。仕組みがわかると目の前の現象がまた違う見え方になります。この活動に参加し、さらに興味を持った生徒は、今では高校課程の有機化学に踏み込んだ内容を理解できるようになりました。

TEACHER'S VOICE

津田学園中学校・高等学校 総括主任教諭 占部智之

津田学園に勤務して21年、すっかり中堅のおじさんになってしまいました。今、私は17年所属した津田学園高等学校を離れ、六年制の進路を担う者として日々奔走しています。六年制に来て感じる三年制との違い、大きな特徴は勉強面だけでなく特別活動の充実にあると思います。
六年制ではアカデミア津田と位置付けて、様々な講演会や体験授業が行われています。そしてそこで得た知識や経験は自らのキャリアプランを形成していく糧となるのです。
今、六年制は若い先生たちが台頭し、熱い気持ちで学力向上に向けた取り組みを日々考え実践しています。それは生徒にとって学ぶ環境の充実に繋がっています。僕自身、若手の時に田中明子先生や近藤洋元副学園長の生徒に負けない「やる気」と「根気」で粘り強く学力を伸ばす指導を見て、自分も負けられないという思いでここまで来ました。今度は私が若手から目標とされる、若手を導くような教師となるよう日々精進していきたいと思います。